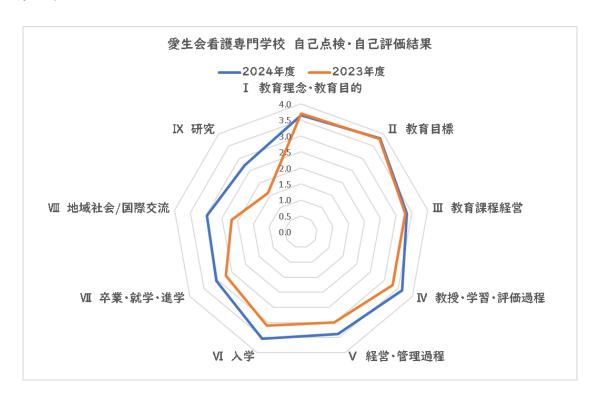
2024年度愛生会看護専門学校 自己点檢・自己評価

厚生労働省から示された「看護師養成所の教育活動などに関する自己評価指針」に基づき、下記の通り 評価を行った。



I 教育理念·教育目的(3.7)

本校の特徴を、教育理念、教育目的に明示し、教育課程を編成している。教員と学生の教育活動の指針となっている。

Ⅱ 教育目標(3.8)

教育方針としてアドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを設定している。教育理念・ 教育目的と一貫性があり、職員だけでなく学生にも分かりやすい表現である。

Ⅲ 教育課程経営(3.4)

科目構成は本校の特徴をあらわし、学生が体系的に学習できるよう、科目進度を工夫している。外部講師をはじめ、各教員の担当科目と時間数を調整し、専門性が発揮できるように調整している。しかし、学生指導やクラス運営、実習指導や職責に伴う業務負担等により、授業準備の時間を十分に確保することが難しい状況である。

また、臨地実習の受け入れ施設によっては、指導体制や学習環境が不安定なため、学生の学習機会が限られてしまう場合がある。臨地実習指導者と教員が協働し、学習を支援していく体制を整備したい。

IV 教授·学習·評価課程(3.6)

授業の内容、方法は会議や領域間、科目担当者間で話し合いを進め、適宜調整を行い、効果的な学習が行えるよう工夫を重ねている。シラバスは統一した内容のものを学生に提示できており、学習指導の一貫性を保ち、学習の動機付けと支援になっている。各科目担当や領域担当の工夫により、ルーブリック評価を含めた多面的な評価が取り入れられている。授業評価、実習評価は、外部講師も含め 4 点満点中、3.6 点で、評価結果をフィードバックして改善に努めている。評価の実施は事務の主導で進められているため、客観性と公平性が保たれている。

また、個別の学習相談、学習指導も学生の要望に対して適宜対応し、学生の学力向上に努めている。

V 経営·管理課程(3.4)

施設設備の老朽化に伴い、定期的、計画的に校舎設備の補修、Wifi 導入、電子テキストの導入等の教育設備の整備、図書や教材を購入し、整備している。感染予防対策、危機管理体制も適宜見直しを図っている。国家試験対策は外部講師との連携を強化し、1年生から計画的、段階的に進められている。

財政基盤については、法人の経営状況に左右される環境であることは否めない。法人の奨学金(給付型、貸与型)の利用、日本学生支援機構、高等教育負担軽減新制度の活用等により、学習の継続を支援している。

学習活動に関する情報提供は、定期的な保護者会の開催、個人懇談を実施している。

広報活動については、市内の中学校からの上級学校訪問の受け入れ、高校への進路相談会への参加、専任教員養成講習会の受講生の受け入れ、臨地実習指導者講習会への講師派遣等、多岐に渡り本校の教育力をPRすることに努めている。

VI 入学(3.5)

アドミッションポリシーを設定し、入学者選抜の要件を明示している。しかし、18 歳年齢の減少、大学の看護学科の増加に伴い、受験生及び入学者の確保が難しくなってきている。オープンキャンパス、学校・病院見学、近隣高校の訪問、小論文講座の開講、SNS での情報発信等、受験生確保の手段を講じている。法人の広報課、人事課とも連携し、受験生及び入学者の確保を強化していく必要がある。

VII 卒業·就職·進学(3.0)

卒業時の到達状況は、卒業時に学生に学校評価アンケートと看護実践能力の到達度調査を実施して分析している。就業は、本校の設立趣旨に沿った支援に努めている。

法人内の病院、施設を含む就職先病院からの評価や、問題把握の方法は確立できていない。活動状況の実際について調査を行い、カリキュラムの運営に反映できるようにしていきたい。

Ⅷ 地域社会/国際交流(3.0)

地域貢献として、学生個々によるボランティア活動への参加や、名古屋空港救難訓練、愛生すこやかフェスタ で近隣住民への校内の解放、きた・きたフェスタにおける、法人内出展ブースでの活動を行っている。

帰国子女や留学生の受け入れは行っていないが、国際的な視野を広げるための科目を設定し、学生の国際的視野を広げ、キャリアビジョンを形成する一助となっている。

IX 研究(2.7)

「Ⅲ 教育課程経営」で述べた通り、様々な業務負担等により、授業準備の時間を十分に確保することが難しく、さらに研究活動としての時間を捻出することは難しい中、第 36 回日本看護学校協議会学会において、研究発表を行うことができている。また、会議や領域内での話し合い等により、科目内容、授業方略を検討していることから、教員個々の教育力向上への意欲は高いと考えられる。

総括

新カリキュラムに移行してから3年が経過し、昨年度よりも評価結果の数値が良化していることから、構築した当初の考え通りのカリキュラム運営ができていると捉えることができる。すなわち、3つのポリシーに基づき、学生の主体性を引き出す関わりや、きめ細やかな教育・指導体制を整え、本校の教育理念・教育目的に沿った教育活動が行われていると評価できる。今後は、本校の理念に基づき、地域に貢献できる看護師の育成を目指すため、法人と連携して、地域交流の機会を増やすとともに、受験生と入学生の確保に努めていきたい。